HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	作業療法学科における入学者選抜方法の現状と課題 : 全国国公立医療技術短期大学部作業療法学科へのアンケート調査から
Author(s)	大宮司, 信; 丸谷, 隆明; 末永, 義圓; 深澤, 孝克; 八田, 達夫; 真木, 誠; 村田, 和香; 河野, 仁志; 上野, 武治
Citation	北海道大学医療技術短期大学部紀要, 6, 43-54
Issue Date	1993-12
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/37563
Type	bulletin (article)
File Information	6_43-54.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

作業療法学科における入学者選抜方法の現状と課題

——全国国公立医療技術短期大学部作業療法学科へのアンケート調査から——

大宮司　信・丸谷　隆明・末永　義圓・深澤　孝克・八田　達夫
真木　　誠・村田　和香・河野　仁志・上野　武治

The Current State and Problem in the Selective Method for Entrance to the Department of Occupational Therapy in College of Medical Technology

—— Through the Results of the Questionaire to the National and Public Colleges of Medical Technology ——

Makoto Daiguji, Takaaki Marutani, Yoshimaru Suenaga, Yoshikatsu Fukazawa, Tatsuo Hatta, Makoto Maki, Waka Murata, Hitoshi Kawano and Takeji Ueno

Summary

The demand for occupational therapists has recently been increasing due to the structural changes in medical care. How to select superior students for occupational therapists is important for the purpose of training them. Then, the authors questionaired 12 national and public colleges of medical technology in our country, having department of occupational therapy, to examine the general selective method for entrance, special selective methods such as recommended entrance, guidance to the department and fluctuation of the number of examinees, etc. In this connection, especially the authors compared the selective methods of our department with those of other colleges, and gave some consideration to our selective methods in future.

要　　旨

医療構造が変化する中で作業療法士の需要は年ごとに高まっている。優秀な作業療法士を養成するためには様々な面の検討が必要であるが，入学者の選抜方法も重要な点の一つである。最近我々は全国の国公立医療短大作業療法学科にアンケート調査を行い，現行の入学選抜方法，推薦入学などの特別の選抜方法，学科内容のガイダンス，受験者数の変動などについて調査した。本論文ではこの調査の結果を報告し，あわせて北大医療短大作業療法学科の現状や，選抜方法の改変の可能性へ向けて若干の考察を加えた。

北海道大学医療技術短期大学部作業療法学科
Department of Occupational Therapy, College of Medical Technology, Hokkaido University

1．はじめに

老人医療に端的に示されるような医療の対象と構造の変化に応じて，作業療法士の需要は近年急激に高まってきている。チーム医療が唱えられる中で，優秀な作業療法士の養成は我々の学科にとって緊急の課題である。そのためには様々な面での検討が必要であるが，入学者の適切な選抜も重要な点の一つである。作業療法士を養成する学校には，4年制大学，短期大学と専門学校の3種類があるが，これまで入学者の選抜方法の現状や中・長期的な方向について詳しく検討された報告は少ない。今回我々は将来に向けて適切な対応を考えるために，全国国公立医療技術短期大学作業療法学科（以下各校）の入学者選抜方法の現状を把握し，何が課題になっているのかを知ることを目的に，アンケート調査を行ったので，ここにその結果を報告し，併せて我々の北大医療短大作業療法学科（以下当科）の現状と課題についても若干の考察を加えた。

2．対象と方法

表1（1～4）に示したアンケートを平成5年1月末に全国国公立医療技術短期大学作業療法学科に送付した。対象は表2に示した12校である。アンケート返却期限は送付1カ月後の平成5年2月末日とした。期限内に回収できるように2月下旬に一度ハガキによってアンケート回答の督促を行った。また，アンケート回収後，記入の不十分のところ，抜けているところを各一部短大の担当者に電話で問い合わせて明らかにし補充した。

なお札幌医大衛生短大は93年4月より4年制への昇格が決定していたためアンケートの対象とはしなかった。

3．結　　果

12校の作業療法学科全てから返事があり，回収率は100％であった。次に項目別に分けて結果を述べる。

1）学力試験科目

表3に示すように，全ての短大が国語，数学，理科，外国語（英語）の4科目を課していた。理科の選択や各科目の出題範囲に若干の相違があった。

2）学力試験以外の方法

学力試験とともに，それ以外の選抜方法を採用しているところは5校（42％）であった。5校は面接を，そのうちの1校は小論文をも採用していた。学力試験以外の方法を取っていないのは7校（58％）であった。

3）現行入試制度の改変について

現行の入学選抜者方法の改変について何らかの方向性を考えている短大は4校(33％)であった。内容としては受験科目の変更が2校，面接などの学力試験以外の方法の併用の採用を考えているところが2校であった。一方，現行の選抜方法の改変を考えていないのは8校（67％）であった。

4）推薦入学制度について

推薦入学制度を行っているのは4校（33％）である。推薦入学制度を行っているところでは，ほとんどが内申書，小論文，面接をもとに選抜しており，1校が3科目の学力試験を課していた。定員に占める枠は年度当たり平均6名であった。その実際は，平成4年度を例にとると平均1校当たり6名で，推薦入学制度を採用している学科では入学者の33％を占めていた。なお4校ともこの推薦入学制度を「評価できる制度」と回答していた。

一方現在推薦入学制度をとっていない8短大の中で，今後推薦制度について何らかの検討を加えているのは3校(38％)，全く考えていない

のは5校（62%）であった。しかし推薦入学制度を考えている3校においても，具体的に何らかの方策を考えているのは1校にすぎなかった。

5）社会人選抜制度について

社会人選抜制度をとっている短大は皆無であった。また将来導入することについて検討している学校は2校（18%）であった。しかし，そのうちわずか1校だけが，実際的な方法として面接及び学力試験を選抜方法としてあげていた。残りの9校（82%）ではそうした検討は全くなされていなかった。

6）帰国子女特別選抜制度

制度として有しているのは2校（17%）であり，残りの10校（83%）はこの制度をとっていない。本制度を持つ2校では，学力，面接，内申書などを選抜方法としており，定員は特に定めていない。ただし，両校とも過去5年間，本制度によって入学した者はいない。

7）学士入学制度

この制度を有している学校は皆無である。今後，本制度の導入を考慮しているのは2校（17%）で，そのうち1校では面接及び学力試験で選抜を考えており，他の1校は大学内の編入学制度の運用を考えているとのことであった。残りの10校（83%）では，導入の取り組みは全くなされていない。

8）受験生のためのガイダンスについて

11校では現在なんらかのガイダンスが行われており，行われていないのは1校のみであった。施行している11校のうち，短大全体として行われているところが9校(82%)，短大全体で行われ，かつ学科独自のガイダンスも行っているところが1校(9%)，学科のみで行っているところが1校（9%）であった。その実施範囲は短大の存在する県内のみで施行しているところが7校(64%)，近隣の県をも含めて行っているところが3校(27%)，県内の一部にのみ行っているところが1校（9%）であった。

9）入学試験受験者について——全国と当科との比較

a）受験倍率について

受験者数と入学者数の比を受験倍率として図1に示す。過去5年間いずれも当科は全国平均を下回っている。この5年間の平均倍率でみると，全国では4.5倍であるのに対して，当科は2.6倍で，約2倍弱の開きがあり，全国12校中の第11位である（図2）。

b）男子入学者について

同じ医療短大でも本学看護学科のように男子学生の入学がきわめて少ない学科もあれば，男子学生が多い診療放射線学科もある。そこで作業療法学科の入学者の中に占める男子学生の割合についてアンケートの中で調査した。過去5年間の男子入学者の実数について図3に示す。当科は，全国平均に比べて昭和63年度，平成元年度の2年間は低かったが，ここ3年間は実数としては全国平均を上回っている。次に全入学者に対する男子学生の割合（%）を図4に示す。このような表示で見てもここ3年間当科は全国平均を上回っている。ただし，過去5年間の平均を（実数,%）で示すと全国（4名，18%），当科（4名，22%）とほぼ同じである。

c）出願しながら受験しなかった者の割合について

受験制度が複雑化するにつれて，いわゆる「かけもち受験」が多くなり，その結果出願しながら実際には受験しない者の割合の増加が懸念される。そこで，出願しながら実際受験しなかった受験生について調べてみた。実数では当科は全国平均を大幅に下回っており，特にこの3年間はかなり少ないといえる（図5）。

一方これを全出願者の中に占める割合で見て

みると（図6）昭和63年，平成元年度は全国とほぼ同じであるが，平成2年，平成3年度はこれをかなり下回っている。しかし平成4年度においては，再び全国水準に近づいている。なお5年間の平均でみると全国では13%，当科は10%とあまり差はない。

d）合格しながら入学しなかった者の割合

入学試験に合格しながら実際に入学しない場合も必ずしも少なくない。この点について質問してみたところ，全12校の中で5校から回答があった。その実数を図7に示す。全国平均では14人追加合格者を発表していることになる。当科では年によって変動はあるが，平均8人である。

入学者を100%としたときの追加合格者の割合を図8に示す。当科は過去5年間常に全国平均を下回っている。これを平均でみると全国では74%，当科は38%と約半分となっている。

4．考　　察

リハビリテーション医療の様々な領域の発展は作業療法士の大幅な需要増をもたらしている。作業療法領域の発展のためにはもちろん個々の作業療法士の質的な向上が必要であるが，現状はもっぱら量的な方向，つまり作業療法士の数の増加へ目が向けられているといわざるを得ない。しかし，札幌医大及び広島大に4年制の作業療法学科が設置され，4年制が進みつつあり，作業療法士に対するより充実した教育への方向がうかがわれる。一方，日常障害を有する患者の診療に従事する臨床家を目指す作業療法士を育成するためには，その選抜方法にも大いに考慮する必要があろう。今回は全国国公立大12校からのアンケート回答をもとに入試方法を中心に検討したが，本アンケートの回収率が100%であったことは各校における作業療法教育の関心や意気込みの高さのあらわれと見てよいと思う。

1）現行の入試方法について

各校で若干の違いがあるが，学力試験科目は国語，数学，理科，英語の4科目である。このうち，数学や理科を中心に短大ごとに若干の相違がある。また近い将来受験科目の見直しや，一部科目の必修選択の別をなくそうとする方向がみられる。これに関しては，他の4年制大学，特に理科系大学を中心とする科目の変更などとも関連することが予想される。なお学力試験以外の方法としては面接や小論文を採用しているところがあり，特に将来臨床家を目指す学科としては，このような方向も一方で考慮する必要があろう。

2）現在の入試状況について

受験倍率について考えると，全国平均ではほぼ4.5倍程度であり，過去5年間ほぼ一定である。このような傾向はもちろん各短大によって違うが，作業療法学科を目指す学生数はここ数年一定していると考えてよいだろう。これに比べ当科では，全国平均を下回っており，しかも年々減少傾向を示している。その理由の一部として学力試験の難しさが関係している可能性はどうであろうか。ただし倍率が低いことと入学後の学力程度は必ずしも平行しない。倍率が減少した近年でも最低合格点にはあまり差はない（なお平成5年度には2.9倍と高くなっている）。

これと関連して注目しなくてはならないのは，願書は出しながら実際には受験しなかった者の割合である。作業療法学科の志望者は，理科系の他学科との並願をする者も多く，特に3年制の短期大学の場合，4年制志向との競合が予想される。今回の結果からは，全国平均でほぼ12～13%の者が毎年一定して実際の受験で欠席しており，この割合にはそう大きな変動はないものと思われる。なお北大では欠席受験者数は一時期減少していたが，昨年度からは全国平均に戻っている。

また合格者の男女比は，男子入学者が全国平均ではやや減少傾向にあり，他の職種と同じく女性の進出傾向がみられた。当科の男子入学者は毎年約20％と平均しており，このような傾向は必ずしもみられない。

一方追加合格者はどの短大でも頭のいたい問題である。これに関しては各短大の事情もあり，回答のあったのは5学科と半数にも満たなかったので必ずしも充分な資料とはいえないが，約75％程度の追加合格者を発表しているのが現状である。当科でも40％程度の追加合格を行っているが，どの年においても全国平均よりは下回っていて，当科への志望のかなり強い者が受験していると考える。

3）受験ガイダンスについて

受験に対するガイダンスは，各校によって取り組みは様々であるが，ほとんどの短大で積極的に行われている。それに比べて当科ではこの点について立ち後れており，これから充分な用意を持って望む必要がある。たしかに前項で延べたように当科では，固定した，しかもかなり強い志望を持った学生が入学してくると考えられるために，今までこのようなガイダンスがなおざりにされてきた感も否めないが，高校生数自体の減少が確実な近い将来，しっかりした取り組みが重要な課題となろう。

4）特殊入学制度について

通常の入学試験以外に，推薦入学，社会人特別選抜，あるいは帰国子女特別選抜，学士入学制度について問い合わせてみた。このうち，帰国子女，社会人特別選抜及び学士入学はその様な制度を持っていないか，あるいは持っていてもその制度を利用した入学者が過去5年間にわたっていなかったかなど，実質的には制度は活用されていなかった（なお社会人選抜に関しては，平成5年度から1校が開始する予定で，アンケート調査時点ですでに3名の合格者が決定していた）。

唯一検討できるのは推薦入学制度である。この制度を行っている4校は，そのいずれもが「評価できる制度」としていたが，推薦入学者が入学後どの様な経過をたどるかについては現在なお検討中であり，推薦入学学生の教育効果などについてはこれからの問題と考えられる。

5）入試改革について

現行の入学試験の改革ないし改変を考えている短大は必ずしも多くない。その方法も現在の一般入学試験の枠内で科目の変更や面接の導入を考えている短大が大多数である。それ以外の推薦入学等の特別選抜入学制度についての取り組みも，3～4校のみが関心を示している程度である。

作業療法士は基本的には臨床に従事する職種であることから，その適性は学力試験で評価される以外の部分が大きいこともまた重視しなければならない。従って受験する者は作業療法士の臨床の現場をよく知り，作業療法士のあり方の少なくても一部を見学あるいは体験した後に志望を決めることが最も望ましいことと考えられる。その様な点から，例えば入学を希望して受験する者には施設見学を課したり，ガイダンスで作業療法士がいかなる役割を果たすかを充分に説明するなどの方法もまた考慮されなければならないであろう。

さらに，今後の高校生の減少や高齢化社会への移行を考慮するとき，社会に出て，様々な職業経験や社会生活経験を有した上で作業療法士を志望する者を積極的に受け入れる方策を考えることは重要と思われる。これまでのわれわれの経験からは，このような多様な人生経験を有する社会人が入学し，学ぶことは，高校を卒業しただけで入学してくる大部分の若い学生にとっては種々の意味で計り知れない教育効果をもたらすことは確かである。従って，今回の調査では未だ導入したり，検討がなされている短

大は極めて少ないものの，われわれとしては将来的には「社会人特別選抜制度」の導入を真剣に検討すべきものと考える。

5．ま　と　め

全国の国公立医療短大作業療法学科12校にアンケート調査を施行し，入試の現状及び将来の方向，さらに特別選抜制度などについて問い合わせた。現在受験倍率は全国的に大きな変動はなく，また他の短大，4年制大学と同じく学力中心の入学試験制度であることが改めて判明した。また推薦入学などの特別選抜制度を行っている短大は少なく，あっても必ずしも充分に機能していないと考えられた。今後われわれの学科でも，作業療法士の需要の増加に伴い，入学者選抜制度においても様々な面からの検討と必要な改革が重要であると思われた。

（付）

本調査は，平成4年度短期大学入学者選抜方法研究経費（文部省）の給付を得て行われたものである。医療短大の他の学科との比較，これまでの医学・医療関係の教育に関連した諸文献との比較は紙数の関係で続報にゆずることとする。従って関連文献・参考文献は次報に一括して掲載する。

（謝辞）

本研究を行う機会を与えて下さり論文を校閲下さいました鈴木重男前部長に感謝申し上げます。村松宰助教授（本学看護学科）には資料の整理検討方法について種々御指導をいただき，また荒木千啓さん（本学作業療法学科12期生）には一部資料の整理に協力していただきました。記して感謝致します。

表1－1　アンケート（1）

医療技術短期大学作業療法学科入学選抜方法についてのおたずね

貴短大の名称：（　　）

Ⅰ．貴科の現行の入学選抜方法について

1．入試科目について
現在入試科目はどのようなものを課しておられましょうか。
次の中で課しておられるものにつきａ，ｂ，ｃ等を○でかこみ、あわせて（　）内の細目（各科目のさらに細目，必修・選択など）につき具体的にご記入下さい。
ａ国　語（　　）　ｂ数　学（　　）
ｃ英　語（　　）　ｄ理　科（　　）
ｅその他の科目（　　）

2．学力試験，身体検査の他に，入学者選抜に採用されている方法がございましたらお教え下さい（ａ，ｂ，ｃ等○でかこんで下さい。ｃ，ｄの場合は具体的にご記入下さい）。
ａ面　接　　ｂ小論文　　ｃ実技検査（　　）
ｄその他（　　）

3．貴科では入学選抜方法につき，現行の方法をかえるような方向で検討しておられますか（ａ，ｂどちらかを○でかこんで下さい）。
ａ検討している　　ｂ検討していない

4．（上記３でａとされた場合のみ）具体的にどのような方法をお考えでしょうか。以下に具体的におかき下さい（面接，論文，施設見学等）。
［　　］

Ⅱ．推薦入学制度について

1．貴科では通常の入学試験の他に、推薦入学制度をとり入れておられますか。
ａ　とり入れている　　ｂ　とり入れていない

2．（上記Ⅱの１でａとされた場合のみ）どのような制度をとっておられるか、例えば高校の内申書によるとか、具体的にご記入下さい
［　　］

3．（上記Ⅱの１でａとされた場合のみ）どのくらいの人数を推薦入学者の枠とされていますか：（　　名）

4．（上記Ⅱの１でａとされた場合のみ）過去５年間の推薦入学者数をお教え下さい
平成４年度：（　）名，平成３年度：（　）名，平成２年度：（　）名，
平成元年度：（　）名，昭和63年度：（　）名

5．（上記Ⅱの１でａとされた場合のみ）これまでの経験から推薦入学制度をどう評価しておられますか。ａ，ｂどちらかをえらんで○をつけて下さい。
ａ　評価できる制度と考える　　ｂ　あまり意義をみとめない

表1－2　アンケート（2）

6．（上記Ⅱの１でｂとされた場合のみ）貴科では今後推薦入学制度の導入をお考えになっておられますか、お教え下さい（ａ，ｂいずれかを○でかこんで下さい）。
ａ　考えていない　　ｂ　考えている（たとえば高校の内申書によるとか、具体的な方法をお考えでしたら下記におかき下さい）
［　　］

Ⅲ．社会人特別選抜について

1．貴科では現在，一般の入学試験とは別に，社会人に対し特別な選抜方法を施行しておられますか（ａ，ｂどちらかを○でかこんで下さい）。
ａ　施行している　　ｂ　施行していない

2．（上記Ⅲの１でａとされた場合のみ）どのような選抜方法をとっておられますか，具体的におかき下さい（学力試験の有無・科目，面接の有無など）。
［　　］

3．（上記Ⅲの１でａとされた場合のみ）どのくらいの人数を社会人特別選抜の枠として考えておられますか。：（　　名）
［　　］

4．（上記Ⅲの１でａとされた場合のみ）過去５年間の社会人特別選抜による入学者数をお教え下さい。
平成４年度：（　）名，平成３年度：（　）名，平成２年度：（　）名，
平成元年度：（　）名，昭和63年度：（　）名

5．（上記Ⅲの１でａとされた場合のみ）社会人特別選抜制度をどのように評価しておられますか。ａ，ｂどちらかに○をつけて下さい。
ａ　評価できる制度である　　ｂ　あまり意義をみとめない

6．（上記Ⅲの１でｂとされた場合のみ）今後このような社会人特別選抜制度の導入をお考えになっておられますか，お教え下さい（ａ，ｂいずれかを○でかこんで下さい）。
ａ　考えていない　　ｂ　考えている（具体的な選抜の方法をお考えでしたら下記におかき下さい）
［　　］

Ⅳ．帰国子女特別選抜について

1．貴科では通常の入学試験の他に，帰国子女について特別選抜制度をとっておられますか。ａ，ｂどちらかを○でかこんで下さい。
ａ　とっている　　ｂ　とっていない

2．（Ⅳの１でａとされた場合のみ）どのような選抜方法をとっておられますか。具体的におかき下さい（学力試験の有無・科目，面接の有無など）。
［　　］

3．（Ⅳの１でａとされた場合のみ）どのくらいの入学者数を帰国子女のための枠としてとっておられますか。：（　　名）

表1－3　アンケート（3）

4．（Ⅳの1でaとされた場合のみ）最近5年間の帰国子女特別選抜による入学者数をお教え下さい。
平成4年度：（　　）名，平成3年度：（　　）名，平成2年度：（　　）名，
平成元年度：（　　）名，昭和63年度：（　　）名

5．（Ⅳの1でaとされた場合のみ）帰国子女特別選抜制度をどのように評価しておられますか。a，bどちらかに○をつけて下さい。
a　評価できる制度である　　b　あまり意義をみとめない

6．（上記Ⅳの1でbとされた場合のみ）貴科では今後帰国子女特別選抜制度の導入を考えておられますか（a，bいずれかを○でかこんで下さい）。
a　考えていない　　b　考えている（具体的な選抜方法をお考えでしたら下記におかき下さい）
［　　］

Ⅴ．学士入学制度について
1．貴科では4年制学部からの学士入学制度をとっておられますか。a，bいずれかを○でかこんで下さい。
a　とっている　　b　とっていない

2．（Ⅴの1でaとされた場合のみ）どのような選抜方法をとっておられますか。具体的におかき下さい(学力試験の有無・科目，面接の有無など)。
［　　］

3．（Ⅴの1でaとされた場合のみ）どのくらいの入学者数を学士入学のための枠としてとっておられますか。：（　　名）

4．（Ⅴの1でaとされた場合のみ）最近5年間の学士入学制度による入学者数をお教え下さい。
平成4年度：（　　）名，平成3年度：（　　）名，平成2年度：（　　）名，
平成元年度：（　　）名，昭和63年度：（　　）名

5．（Ⅴの1でaとされた場合のみ）学士入学制度をどのように評価しておられますか。a，bどちらかに○をつけて下さい。
a　評価できる制度である　　b　あまり意義をみとめない

6．（上記Ⅴの1でbとされた場合のみ）貴科では今後学士入学制度の導入を考えておられますか（a，bいずれかを○でかこんで下さい）。
a　考えていない　　b　考えている（具体的な方法をお考えでしたら下記におかき下さい）
［　　］

Ⅵ．作業療法学科受験生のためのガイダンスについて
1．貴科では作業療法学科への受験生のためにガイダンスを実施しておられますか。
a，b，cからえらんで○でかこで下さい。
a　短大全体として実施している　　b　学科として実施している
c　実施していない

表1－4　アンケート（4）

2．（上記Ⅵの1でaまたはbとされた場合のみ）どのような範囲に実施しておられるか（たとえば貴校の所在の市内のみか，県内全域か。高校のみか，予備校も含めてかなど）お教え下さい。
［　　］

3．（上記Ⅵの1でcとされた場合）貴科では今後このようなガイダンスの実施を考えておられるかどうか，お教え下さい（a，bいずれかを○でかこんで下さい）。
a　考えていない　　b　考えている（具体的な実施方法・範囲などお考えでしたらおかき下さい）
［　　］

Ⅶ．貴科における最近の入学試験受験者数などにつきおうかがいいたします。
お教えいただける範囲内でけっこうですので，下記の表へご記入下さい。

	定　員	願書提出者数	入学試験を全科うけた者の数	最終的に何番目までを合格としたか	入学者数（男子数）
平成4年度					
〃 3 〃					
〃 2 〃					
〃 元 〃					
昭和63年度					

以上です。ご協力ありがとうございました。
なお場合によりましては，あらためておうかがいすることも出てくるかと存じます。このアンケートをおかき下さった方のお名前，連絡先の電話番号おしらせ下さると幸いです。

ご記入下さった方のお名前：
電 話 連 絡 先：

表2　アンケートを送付した国公立短大作業療法学科

1．弘前大学医療技術短期大学部　作業療法学科
2．秋田大学医療技術短期大学部　作業療法学科
3．群馬大学医療技術短期大学部　作業療法学科
4．東京都立医療技術短期大学部　作業療法学科
5．信州大学医療技術短期大学部　作業療法学科
6．金沢大学医療技術短期大学部　作業療法学科
7．名古屋大学医療技術短期大学部　作業療法学科
8．京都大学医療技術短期大学部　作業療法学科
9．神戸大学医療技術短期大学部　作業療法学科
10．長崎大学医療技術短期大学部　作業療法学科
11．鹿児島大学医療技術短期大学部　作業療法学科
12．北海道大学医療技術短期大学部　作業療法学科

表3　受験科目
必：必修，　選：選択，　数：数学，　代幾：代数・幾何，
基解：基礎解析，　確統：確率統計，　英：英語

学科目	出題科目	必・選	科目数	短大数
国語	国語Ⅰ＋Ⅱ	必	2	6
	国語Ⅰ＋Ⅱ（古文・漢文をのぞく）	必	2	6
数学	数Ⅰ	必	1	1
	数Ⅰ＋数Ⅱ	必	2	1
	代幾＋基解	必	2	1
	数Ⅰ＋代幾＋基解	必	3	7
	数Ⅰ＋代幾＋基解＋確統（一部）	必	4	2
理科	物理，化学，生物から	選	1	1
	物理，化学，生物から	選	2	3
	物理，化学，生物から（理科Ⅰを含む）	選	1	2
	物理，化学，生物から（理科Ⅰを含む）	選	2	6
外国語	英Ⅰ＋英Ⅱ	必	2	10
	英Ⅰ＋英Ⅱ＋英ⅡB	必	3	1
	英Ⅰ＋英Ⅱ＋英ⅡB・C	必	3	1

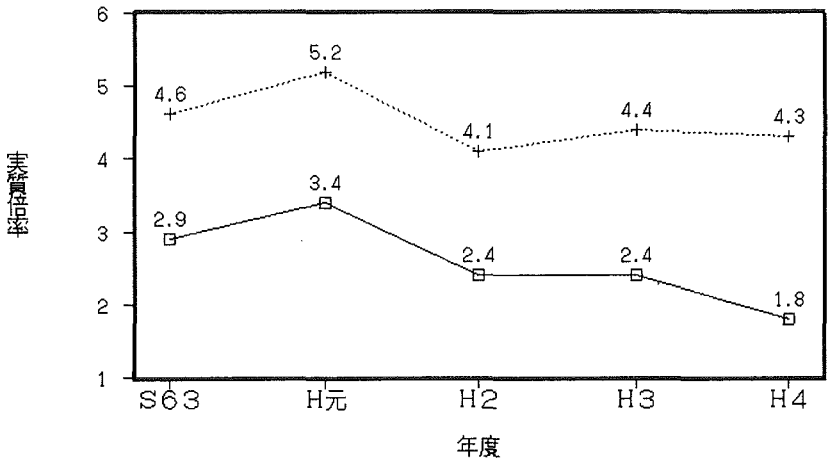

図1　受験倍率の年次変化
□ ——— ：北大医短・作業法学科
＋ ------- ：全国医短・作業法学科（平均値）
（以下表示は同じ）

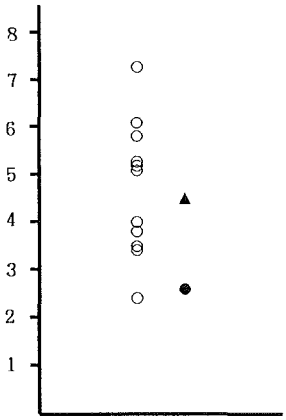

図2　平成4年度の受験倍率
○：過去5年間の各国公立医短作業療法学科の平均受験倍率
▲：過去5年間の受験倍率の平均
●：過去5年間の北大医短作業療法学科の平均受験倍率

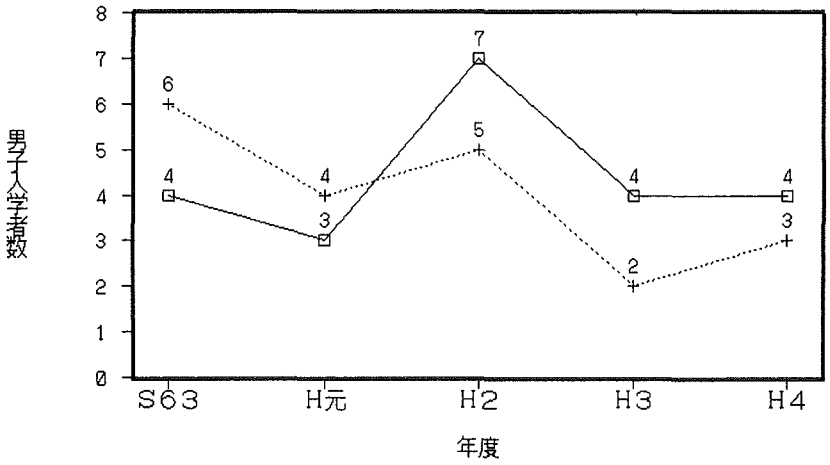

図3　男子入学者数の年次変化（実数）

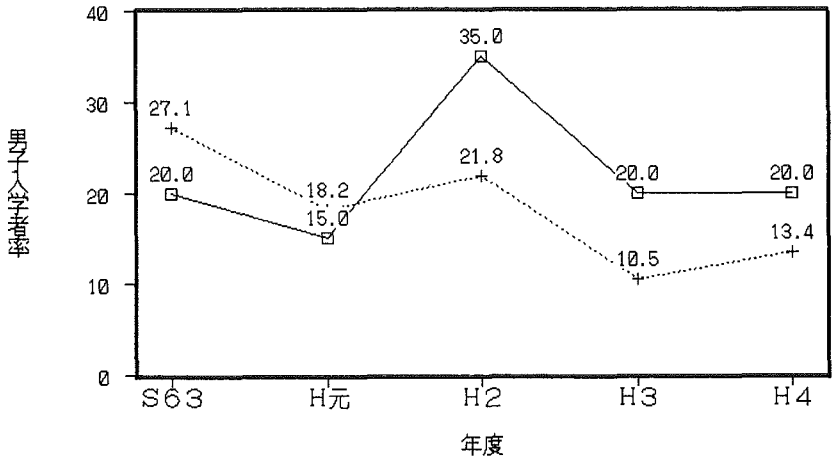

図4　男子入学者数の年次変化（率）

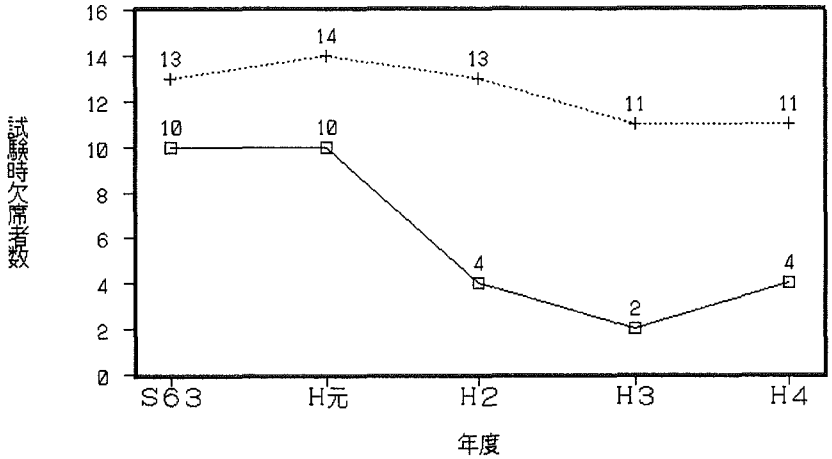

図5　試験時欠席者（実数）

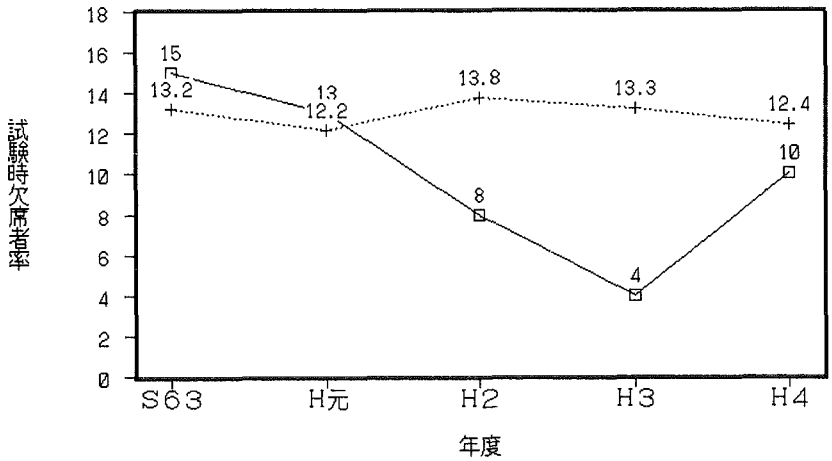

図6　試験時欠席者（率）

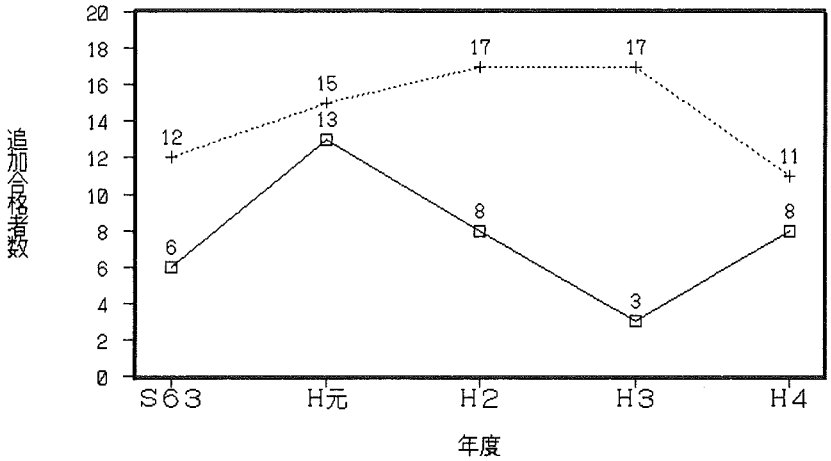

図7　追加合格者（実数）

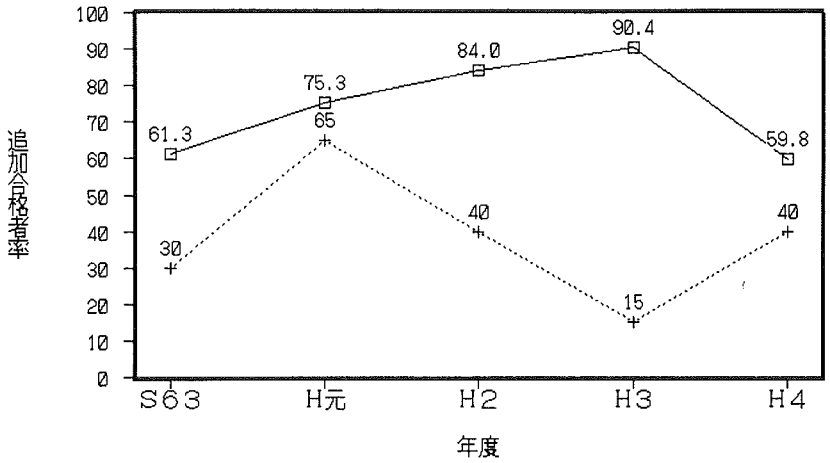

図8　追加合格者（率）